一対の内・外平歯車の歯のかみあいばねこわさの理論解析

Theoretical analysis of tooth mesh stiffness of a pair of internal and external spur gears Dr. Shuting Li

1. 概要

歯車の振動を解析する際には、歯のかみあいばねこさわ(かみあい剛性)を求める必要があるが、歯の かみあい位置により、歯のかみあい剛性が変わり、また歯のかみあい剛性は歯車の加工誤差、組立誤差及 び歯面修整の影響を受けやすいので、実際に歯のかみあい剛性を求めることは非常に難しい作業である。 筆者は歯のかみあい剛性を求めるために、長い研究時間をかけて専用三次元有限要素法ソフトを開発し ました。この専用ソフトで解析した一対の外平歯車の歯のかみあい剛性及び外平歯車と内平歯車がかみ あう時の歯のかみあいばねこわさの解析結果を次に紹介する。このソフトは歯車に組立誤差、加工誤差 及び歯面修整がある場合にも歯のかみあいばねこわさが解析できる⁽¹⁻³⁾。

2. 一対の外平歯車の歯のかみあいばねこわさ

図1に一対の外平歯車の接触問題を解析するために用いた三次元有限要素法モデルを示す。このモデ ルで歯車のかみあい剛性を求める際には、歯車の1かみあい周期(ピッチ)を12点のかみあい位置に分 けてそれぞれのかみあい位置で三次元有限要素法を用いた一対の歯車の接触解析により歯のかみあいバ ネ常数を解析した。解析の際には、出力側の大歯車に400Nmのトルクを加えた。表1に有限要素法で解 析した各かみあい位置における歯のかみあいバネ常数を示している。



図1 一対の外平歯車の接触解析用有限要素法モデル

文責:島根大学総合理工学部機械設計研究室教授 李 樹庭

2023 年 8 月 22 日 Email: shutingnpu@yahoo.co.jp

かみあい	一対目の歯の	二対目の歯の	合計剛性
位置	かみあい剛性	かみあい剛性	
1	$3.3560 imes 10^{8}$	5.3099×10^{8}	8.6659×10^{8}
2	$3.9510 imes 10^{8}$	$5.0978 imes 10^{8}$	$9.0488 imes 10^{8}$
3	$4.2587 imes 10^{8}$	$4.8848 imes 10^{8}$	$9.1435 imes 10^{98}$
4	4.5542×10^{8}	$4.6488 imes 10^{8}$	9.2031×10^{8}
5	4.7728×10^{8}	4.3419×10^{8}	9.1146×10^{8}
6	$5.0227 imes 10^{8}$	3.9774×10^{8}	9.0001×10^{8}
7	$5.2635 imes 10^{8}$	3.4862×10^{8}	$8.7497 imes 10^{8}$
8	$5.8713 imes 10^{8}$		5.8713×10^{8}
9	$5.9566 imes 10^{8}$		$5.9566 imes 10^{8}$
10	6.0054×10^{8}		$6.0054 imes 10^{8}$
11	$5.9731 imes 10^{8}$		5.9731×10^{8}
12	5.7732×10^{8}		5.7732×10^{8}

表1 外歯車と外歯車がかみあう時の歯のかみあい剛性[単位:N/m]

3. 一対の外平歯車の歯のかみあいばねこわさ

図2に外平歯車と内歯車がかみあう時の接触問題を解析するために用いた三次元有限要素法モデルを 示す。このモデルで歯車のかみあい剛性を求める際には、歯車の1かみあい周期(ピッチ)を10点のか みあい位置に分けてそれぞれのかみあい位置で三次元有限要素法を用いた一対の歯車の接触解析により 歯のかみあいバネ常数を解析した。解析の際には、出力側の大歯車に500Nmのトルクを加えた。表2に 有限要素法で解析した各かみあい位置における歯のかみあいバネ常数を示している。



図2 外平歯車と内平歯車がかみあう時の歯の接触解析用有限要素法モデル

文責:島根大学総合理工学部機械設計研究室教授 李 樹庭

2023 年 8 月 22 日 Email: shutingnpu@yahoo.co.jp

かみあい	一対目の歯の	二対目の歯の	合計剛性
位置	かみあい剛性	かみあい剛性	
1	$4.0019 imes 10^{8}$	$6.3442 imes 10^8$	1.0346×10^{9}
2	$4.3585 imes 10^{8}$	$6.3165 imes 10^{8}$	$1.0675 imes 10^{9}$
3	$4.7516 imes 10^{8}$	6.1111×10^{8}	1.0863×10^{9}
4	$5.1004 imes 10^{8}$	$5.7914 imes 10^{8}$	1.0892×10^{9}
5	$5.4033 imes 10^{8}$	$5.4534 imes 10^{8}$	1.0857×10^{9}
6	$5.7509 imes 10^{8}$	$5.0064 imes 10^{8}$	1.0756×10^{9}
7	$6.0654 imes 10^{8}$	$4.4893 imes 10^{8}$	$1.0555 imes 10^{9}$
8	$6.3421 imes 10^{8}$	$3.8809 imes 10^8$	1.0223×10^{9}
9	7.1836×10^{8}		7.1836×10^{8}
10	7.1406×10^{8}		7.1406×10^{8}

表2 外歯車と内歯車の歯のかみあい剛性[単位:N/m]

表1と表2の結果を用いて、補間法により算出した歯のかみあいバネ常数の曲線をそれぞれ図3と図4に示す。これらの図の横軸は歯車の回転位置を示す角度であり、縦軸は補間された歯のかみあいバネ 常数である.





参考文献:

- Shuting Li, "Effects of Machining Errors, Assembly Errors and Tooth Modifications on Load-Carrying Capacity, Load-Sharing Rate and Transmission Error of a Pair of Spur Gear", Mech. Mach. Theory, Vol. 42, Issue 6, 2007, pp.698-726.
- (2) Shuting Li, "Finite Element Analyses for Contact Strength and Bending Strength of a Pair of Spur Gear with Machining Errors, Assembly Errors and Tooth Modifications", Mech. Mach. Theory, Vol. 42, Issue 1, 2007, pp.88-114.
- (3) Shuting Li, "Gear Contact Model and Loaded Tooth Contact Analysis of a Three-Dimensional, Thin-Rimmed Gear", Trans. ASME, J. Mech. Des., Vol. 124, Issue 3, Sept. 2002, pp.511-517.